

2020年度 第2四半期 決算説明会 資料

ファナック株式会社

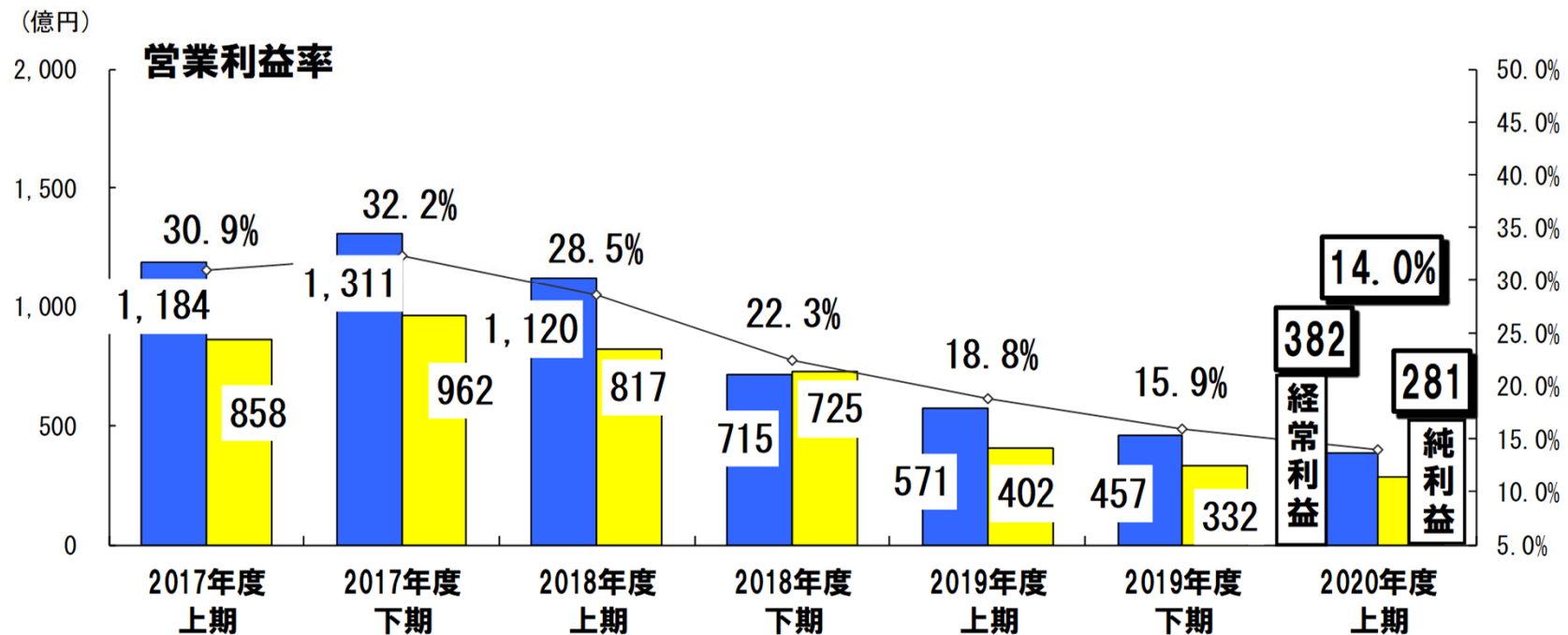
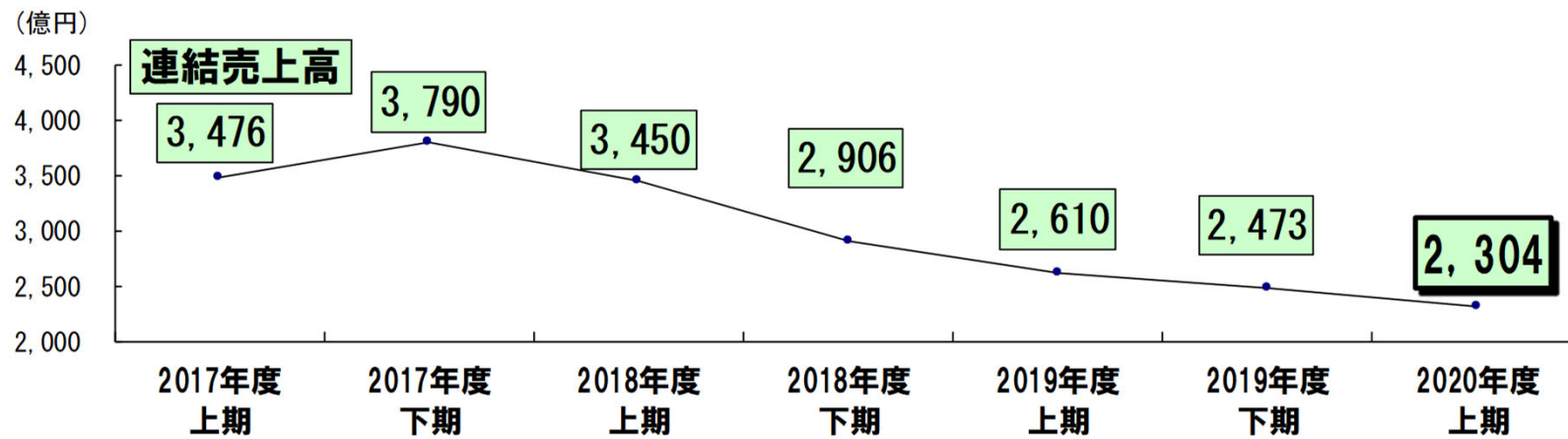
本資料に含まれている見直しには、主要市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。

2020年度 上期 連結実績

(単位：億円)	2019年度 上期実績	2020年度 上期予想	2020年度 上期実績	増減率 前年同期比	増減率 前回予想比
売上高	2,610	2,124	2,304	-11.7%	+8.5%
売上原価 【売上原価率】	1,644 63.0%	1,502 70.7%	1,567 68.0%	-4.7%	+4.3%
営業利益 【営業利益率】	490 18.8%	204 9.6%	323 14.0%	-34.1%	+58.4%
経常利益 【経常利益率】	571 21.9%	259 12.2%	382 16.6%	-33.1%	+47.6%
特別損益	-20	-	-	-	-
純利益 【純利益率】	402 15.4%	187 8.8%	281 12.2%	-30.0%	+50.3%
為替レート					
円/1USD	108.63	103.81	106.92	-1.6%	+3.0%
円/1EUR	121.42	116.74	121.30	-0.1%	+3.9%

純利益＝親会社株主に帰属する純利益

連結売上高・損益 半期推移



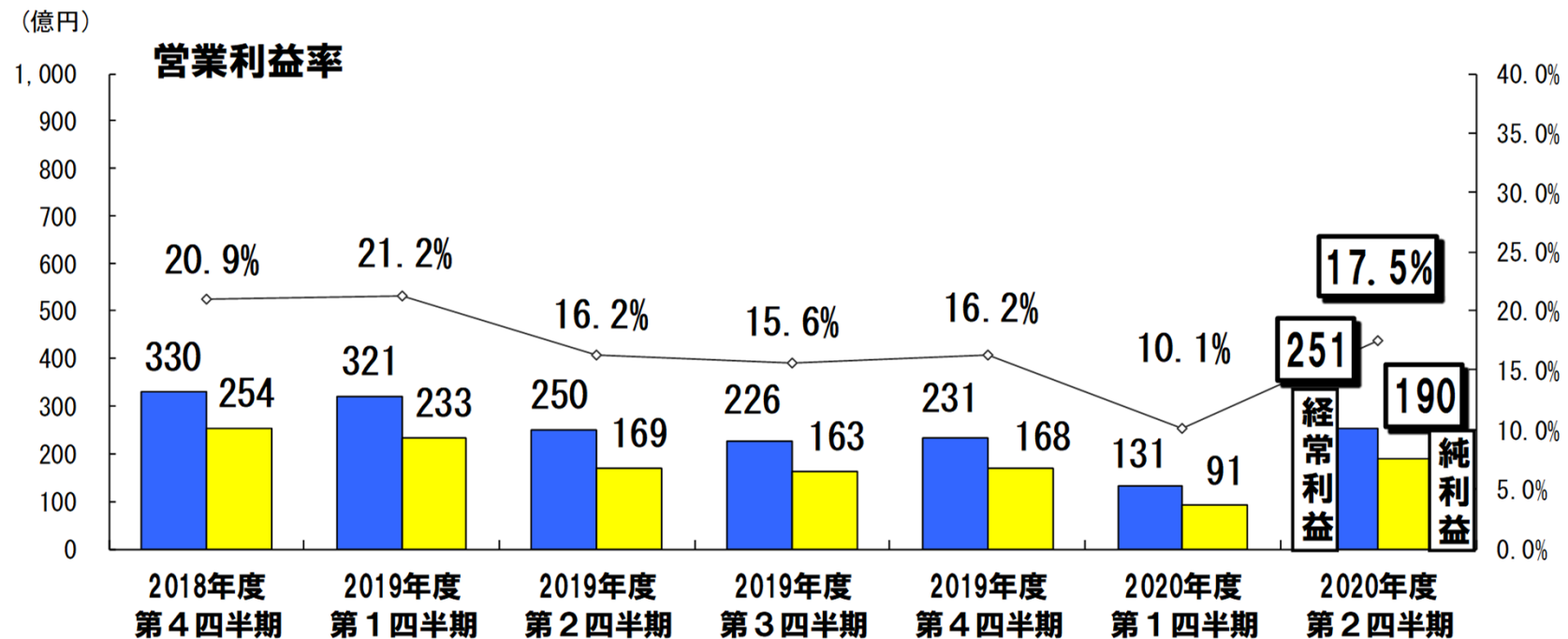
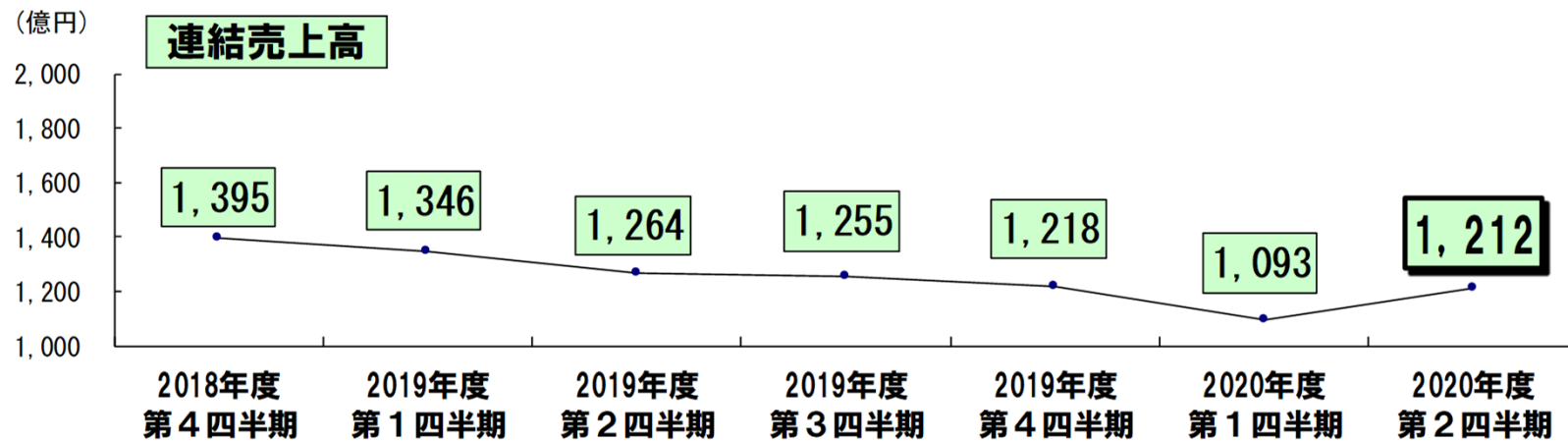
純利益＝親会社株主に帰属する純利益

2020年度 第2四半期(3ヶ月) 連結実績

(単位：億円)	2019年度 第2四半期 (7～9月)	2020年度 第1四半期 (4～6月)	2020年度 第2四半期 (7～9月)	増減率 前年同期比	増減率 前四半期比
売上高	1,264	1,093	1,212	-4.1%	+10.9%
売上原価 【売上原価率】	823 65.1%	778 71.2%	789 65.1%	-4.1%	+1.4%
営業利益 【営業利益率】	204 16.2%	111 10.1%	212 17.5%	+4.0%	+91.8%
経常利益 【経常利益率】	250 19.8%	131 12.0%	251 20.7%	+0.2%	+90.9%
特別損益	-20	-	-	-	-
純利益 【純利益率】	169 13.4%	91 8.3%	190 15.7%	+12.5%	+109.2%
為替レート					
円/1USD	107.35	107.62	106.22	-1.1%	-1.3%
円/1EUR	119.34	118.48	124.11	+4.0%	+4.8%

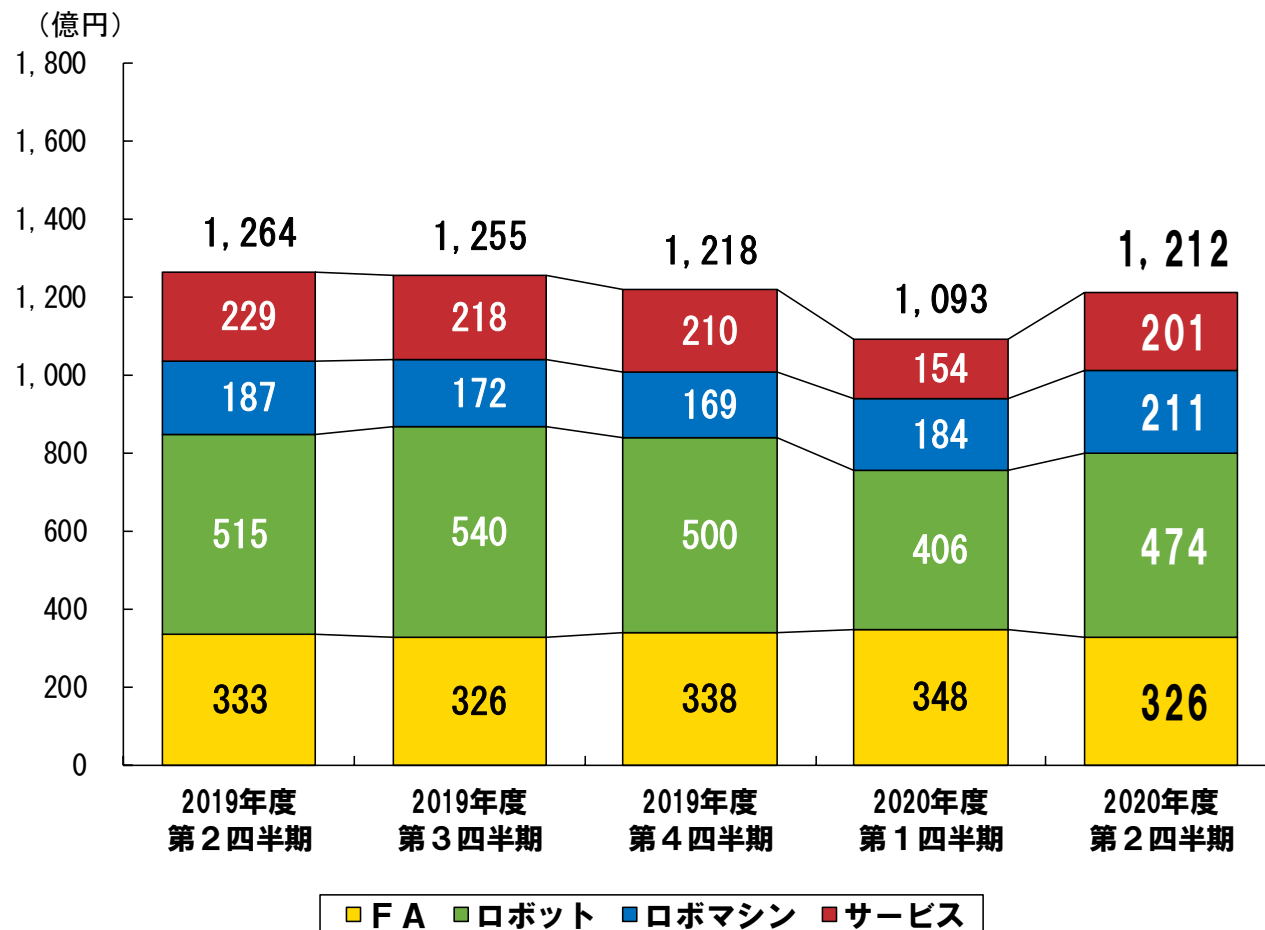
純利益 = 親会社株主に帰属する純利益

連結売上高・損益 四半期推移



純利益 = 親会社株主に帰属する純利益

連結 部門別売上高

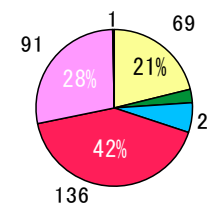


第2四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第1四半期との比較〕

- FA** →国内、欧州、韓国で減少。インドで増加。中国で好調に推移。
- ロボット** →米州で一般産業向けが堅調、自動車関係向けが回復傾向。欧州で増加。中国で好調に推移。
- ロボマシン**→ロボドリルが中国で増加。ロボショット、ロボカットが減少。
- サービス** →第1四半期にロックダウンなどにより減少した影響で増加。

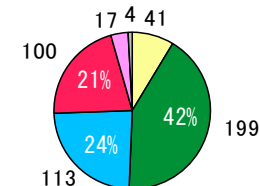
2020年度第2四半期

FA 地域別



10.9%

ロボット 地域別

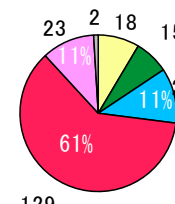


30.3%

14.8%

16.7%

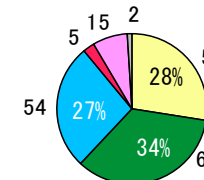
ロボマシン 地域別



-6.5%

増減率
前期比

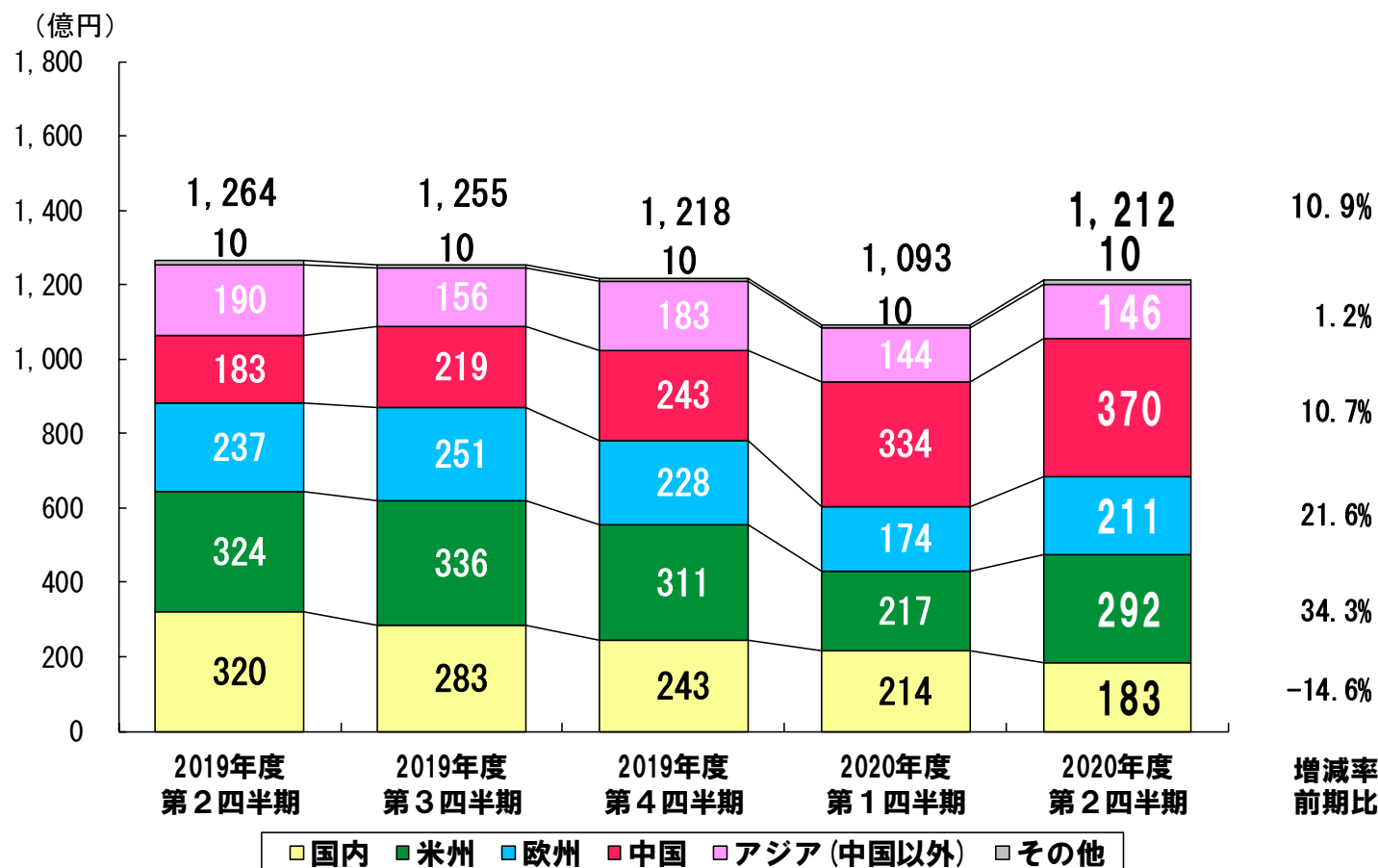
サービス 地域別



※中国で持分法適用
会社が行っている
サービスの売上高は
連結売上に含まない



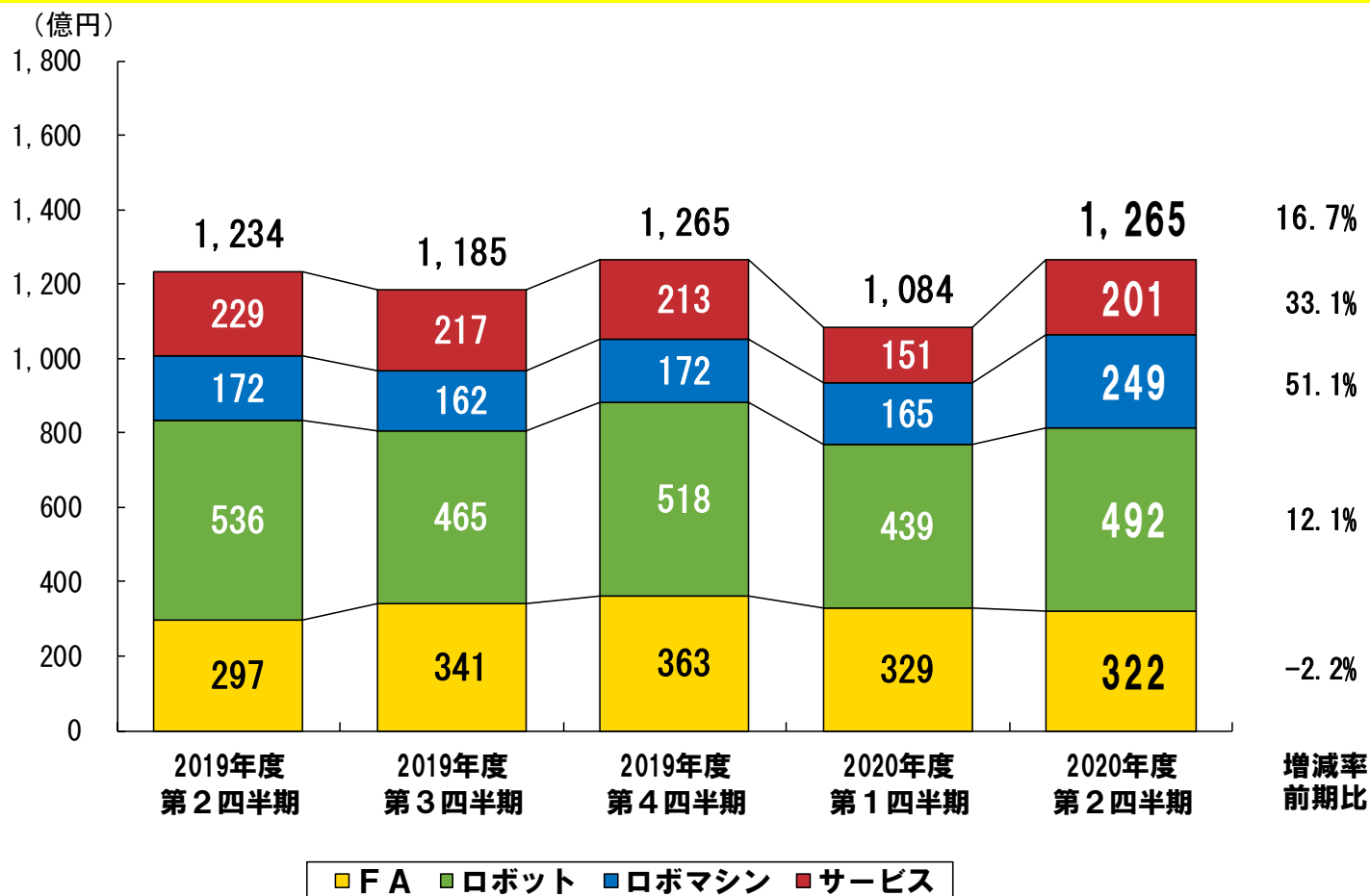
連結 地域別売上高



第2四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第1四半期との比較〕

- 国内 →FA、ロボマシンが減少。
- 米州 →ロボットが一般産業向けの堅調、自動車関係向けの回復傾向により増加。
- 欧州 →ロボットが増加。FAが減少。
- 中国 →ロボドリルが増加。FA、ロボットが好調に推移。
- アジア (中国以外) →FAがインドで増加、韓国で減少。

連結 部門別受注高



第2四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第1四半期との比較〕

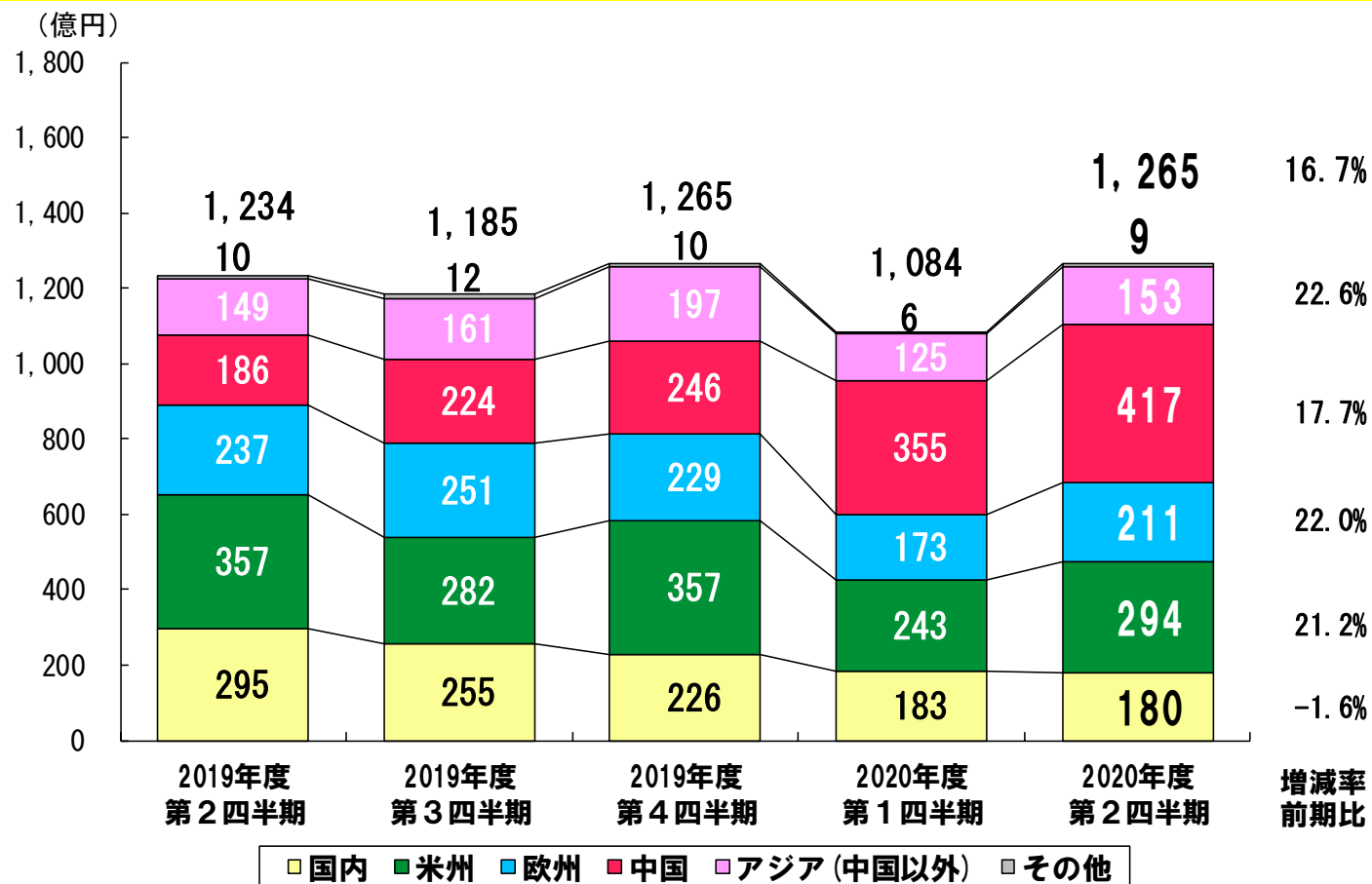
FA →国内、欧州で減少。韓国、台湾、インドで増加。中国で好調に推移。

ロボット →米州で一般産業向けが堅調、自動車関係向けが回復傾向。欧州で増加。中国で好調に推移。国内で減少。

ロボマシン→ロボドリルが中国で増加。ロボショット、ロボカットが増加。

サービス →第1四半期にロックダウンなどにより減少した影響で増加。

連結 地域別受注高



第2四半期（3ヵ月）の状況〔2020年度第1四半期との比較〕

- 国内 →FA、ロボットが減少。
- 米州 →ロボットが一般産業向けの堅調、自動車関係向けの回復傾向により増加。
- 欧州 →ロボットが増加。FAが減少。
- 中国 →ロボドリルが増加。FA、ロボットが好調に推移。
- アジア (中国以外) →FAが韓国、台湾、インドで増加。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2019年度 上期 (4～9月)	2019年度 通期	2020年度 上期 (4～9月)	前年 同期比
設備投資額	444	705	106	-338
減価償却費	222	459	217	-5
研究開発費	264	513	234	-30

連結 通期業績予想

(単位：億円)	2019年度	2020年度予想		増減率 前年比	増減率 前回予想比
		前回予想	今回予想		
売上高	5,083	4,233	5,025	-1.1%	+18.7%
売上原価 【売上原価率】	3,261 64.2%	2,998 70.8%	3,303 65.7%	+1.3%	+10.2%
営業利益 【営業利益率】	883 17.4%	385 9.1%	854 17.0%	-3.3%	+121.8%
経常利益 【経常利益率】	1,028 20.2%	477 11.3%	963 19.2%	-6.3%	+101.9%
特別損益	-20	-	-	-	-
純利益 【純利益率】	734 14.4%	345 8.2%	718 14.3%	-2.1%	+108.1%
為替レート					
円/1USD	108.74	101.91	103.46	-4.9%	+1.5%
円/1EUR	120.82	115.87	120.65	-0.1%	+4.1%

2020年度下期
為替レート想定
円/1USD 100円
円/1EUR 120円

富士通、ファナック、NTTコミュニケーションズ、製造業のDXを実現するクラウドサービスを提供する新会社「株式会社DUCNET」を設立

富士通株式会社、ファナック株式会社、NTTコミュニケーションズ株式会社の3社は、工作機械業界をはじめとした製造業のデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）を支援する場をクラウドサービスとして提供する新会社「株式会社DUCNET（ディーユーシーネット）」を2020年11月（予定）に設立します。（※）



（※）株式会社DUCNETは競争当局のクリアランス後に設立され事業を開始します。

株式会社DUCNETの設立について

「株式会社DUCNET」は2020年11月に事業を開始し、2021年4月からクラウドサービスの提供を開始する予定です。

今後、「株式会社DUCNET」は「デジタルユーティリティクラウド」を利用する各企業のさらなるものづくり力の強化に貢献すること、並びに機械メーカーや機械ユーザ、商社、ITベンダなどの参加各社が、サービス提供者でありサービス利用者になれるエコシステムを実現することを目指します。

[会社情報]

1. 会社名：株式会社DUCNET（英語表記 DUCNET Co., Ltd.）
2. 資本金：2億5千万円（株主構成:富士通40%、ファナック30%、NTT Com 30%）
3. 会社設立時期：2020年11月予定
4. 事業開始時期：2020年11月予定

「ファナックの取り組み」

- DUCNETを自社のDXに利用しながら、工作機械業界向けにブラッシュアップします。
- 工作機械業界向けに提供するDXサービスを作り上げ、DUCNETが作り上げるエコシステムを通して、販売する予定です。

DUCNETが提供する「Digital Utility Cloud サービス」

- 1) DUC基盤
高度なセキュリティで保護された空間で、安心・安全にサービスを展開
- 2) Trust SNS（コミュニケーションツール）
すべてのSNSデータは、利用者が管理し、再利用が可能（ノウハウ蓄積）
- 3) ストレージサービス
社外との大容量データ共有や、多品目データのAI検索（予定）をサポート
- 4) ECストア
デジタルコンテンツのライセンス管理とサブスクリプション販売をサポート

「Digital Utility Cloud サービス」を利用したファナックが提供予定のサービス

- 1) リモート保守ツール
工作機械の故障診断をサポート
- 2) AI検索ツール
マニュアルなどのデジタル情報の検索
- 3) ビジュアルガイダンス
ビジュアルな説明書作成ツール